

建設系高校生による「建設業に対するイメージアップ」作文の部



最優秀賞



「笑顔でつなげる土木技術者を目指して」

愛知県立稲沢高等学校 農業土木科 1年

小澤 美桜

「自分の好きなことってなんだっけ？」
私の将来の夢は、何も決まっていませんでした。自分の好きなことを考えると「人を笑顔にすること」という答えが出ました。
高校進学を決めるとき、人と関わることを学べる学科「商業科」へ行こうと思っていましたが、将来のことを考えるともっと違う進路があると思い、広い視野で商業科以外の学科も考えてみることにしました。そこで私の尊敬する父に相談しました。父は建設業で働いています。中でも屋根工という仕事をしています。屋根には、瓦・カラーベースト・板金・シングルなど色々な種類があり、様々な特徴があります。
屋根工は、上棟後1週間以内に作業を終えるため、完成した家は滅多にみることはありません。しかし、父が携わり完成した家の近くを通ると、そこには『笑顔があふれている家族』をみかけそうです。建物をつくるためには多くの仲間と一緒に作りあげ完成させる必要がある。私は、仲間と一緒に作りあげる仕事に強く惹かれるようになりました。ある時、父のお弁当を届けるために、現場に行く機会がありました。父の自信と誇りをもって仕事をしている姿を見ると、「カッコいい職人」と思いました。仕事は暑い夏や寒い冬でも外の仕事で厳しいですが、施工会社の方から施主さんが「この屋根いいね」と褒めてくれたと聞いた話を夕食時に誇らしく話してくれる父の笑った顔が、私の一番好きな父の顔です。

中学3年の夏に、稲沢高校の体験入学で「測量」と「ペーパークラフト」を体験しました。特に、測量を体験したとき、その技術がないと道路や橋、鉄道、建物などの位置をとることができないと教えてもらいました。父の姿と自分がかきざり、稲沢高校農業土木科に進路を決めました。農業土木施工の授業では、地域が道路や橋、上下水道工事によってインフラ設備され、住みやすい街ができ、多くの地域住民を笑顔にすることができることを知りました。

最近では、建設・土木業界も機械化や ICT 化により女性が現場監督をされていることも知りました。また土木業界もコンクリートから自然に優しい環境型土木に変化しつつあることも学びました。

私の住んでいるこの尾張地域には、木曾川・長良川・揖斐川の木曾三川があります。この三川は、下流部分で合流・分流を繰り返し江戸から明治にかき河川の氾濫によってたびたび水害が起き、多くの人々が亡くなっています。

江戸時代には、薩摩藩の平田靱負はじめ 1000 人の藩士が行った宝暦治水、明治時代にはオランダ人技師のヨハネス・デレーケによって木曾三川分流工事が行われ、現在に至っています。

また、近年では長良川河口堰の建設など全国的に治水工事の盛んな地域でもあります。私は、土木の仕事は人々の暮らしを守り、安全で安心な生活ができる土地を創造するということに魅力を感じます。このことは「人を笑顔にする」仕事とは異なりますが、「人々が安心して生活できる地域づくり」すなわち「安心な暮らし＝笑顔で暮らす」という同じ共通点があると思いました。

木曾川の川岸にも土木遺産に認定されている明治時代につくられたケレップ水制が現在でも存在しています。これと同じように現代は水生植物を植えたり、ワンドの作成工事を行うなど、自然保全型工事が進められています。また、キャンプができる公園の整備も進められています。公園以外の多くの施設でも整備がされており、「安心・安全」な街づくりが行われています。休日の公園には多くの家族連れが訪れ、笑顔があふれています。家族だけでなく友達同士の笑顔もあふれるようになるとその地域全体が明るくなります。私はそんな明るい街づくりのために、「安心して人々が生活できる」そして「土木で笑顔にできる」そんな魅力的な生活環境が創造できる土木の仕事に将来は就きたいです。

先日、土木関係の仕事に就くには、資格の取得が必要であるため、専門学校の先生に出前授業を実施していただきました。その中で土木に関係する資格である、1級土木施工管理技士と2級土木施工管理技士の話を聞き、2級土木施工管理の学科試験は、在学中に受験資格があることを知り、私も将来に向けて必ず取得したい。

そして、女性の視点から見た新しい感性を活かせるような土木技術指導者になり、色々な提案をしてきたいと考えています。

私は、目標である「人を笑顔にする」ために、農業土木科で専門的なことやコミュニケーション能力などを身につけ、自分も笑顔で接することで周りから頼られる土木技術者を目指します。

建設系高校生による「建設業に対するイメージアップ」作文の部



「人々の暮らしを守る要」

愛知県立岡崎工科高等学校 土木科 3年

國分 真吾

私は、岡崎工科高等学校に入学し、この三年間で様々なことを学びました。その中身は、わたしが中学生の頃にイメージしていたものとは少し違っている事もありました。

私が、中学生の頃の土木に対するイメージは、機械や人力で土を掘る作業が多いということです。しかし、実際に土木科で学んでいると、土地の地形を調査する測量という作業がある事が分かりました。また、測量にも様々な種類があり、目的により使い分けられています。このように、土木の分野では土を掘る作業だけではなく、測量やその他にも様々な作業を行っています。

私が土木科に入った理由は、道路、橋、水道、ガスなどのライフライン関係の仕事に、携わりたいと思っていたからです。このように、土木を通して色々な場面で人々の生活を支える事が出来るのが土木・建設業の魅力でもあります。

また、高校で専門的に新しく学び始めた教科もあります。その中で、一番印象に残っている教科は土木基礎力学です。この教科では、橋や柱などの構造物の安全性が、どのように保たれているのかを学ぶ事が出来ます。その知識を用いることで、人々の生活の安全を守る構造物を作る事が出来るからです。

私は将来、ダム管理に関する仕事に就きたいと思っています。私は「ダム」と聞くと雨の水を溜めるもの、という漠然としたイメージしかありませんでした。しかし、実際にはその他にも様々な仕事があり、私たちの生活を支えています。ライフライン関係の仕事に就職したいと考えている私にとって、ダムの管理は規模も大きく、やりがいを感じる事ができる素晴らしい仕事です。

また、この他にもやりがいを感じる事の出来る仕事、土木・建設業には沢山あります。そのことに気付いたのは、高校二年生の時に参加したインターンシップの時です。私はインターンシップで岡崎市役所へ行き、沢山の人の話を聞きました。道路の建設や橋の整備など、色々な話がありました。どの事業も、規模が大きく長い時間を費やして行くものでしたが、やり終えた時の達成感があるのだと思いました。特に、道路や橋に関しては自分が作った物の上を通る事が出来るので、凄くやりがいを感じるものだと思います。

土木・建設業は、規模の大きな仕事があるため、どのような仕事でも達成感ややりがいを感じる特別な仕事だと思います。

今、私達が当たり前のように暮らしている日常生活の中でも、様々な場面で土木・建設業が活躍しています。例えば、私たちが普段歩いている道路、山間部に行けばトンネルなど人々の生活を支えています。このような仕事に携わるチャンスがあるのは、とても素晴らしいことだと思います。

私は土木・建設業が、こんなに素晴らしい仕事だという事を土木について学ぶまで、知りませんでした。「土木・建設業は、見えない所でこんなに凄い仕事をしているんだ」、という事をもっと多くの人に知って頂きたいと思います。

日本は昔から自然災害が多い国です。その被害の対策も土木・建設業は行っています。例えば、ダムの管理もその一つです。大雨が降った際などに、ダムの水位が急激に上がってしまうと、水が溢れてしまい被害が拡大してしまいます。そこで、ダム管理施設では溜まっている水を少しずつ放流し、水位の調整をしています。このように、土木・建設業は本当に沢山の場面で人々の暮らし、生活を守る事が出来る特別な仕事であると思います。

将来、日本や世界が目指すべき社会は地球温暖化による異常気象、その中でも集中豪雨に対して被害の対策が出来る社会だと思います。近年、集中豪雨が多発して河川の氾濫や堤防が決壊し、住宅街が水浸しになってしまったというニュースを聞いた事があります。今後も豪雨が多発し、堤防決壊などの可能性が上がると思います。だから、そのような被害を未然に防ぐために、河川や堤防の整備が必要だと思います。河川の流域を広くして、水の水位を下げ、川の氾濫を対策し堤防の高さを少しでも高くし、強度を増す事で、堤防の決壊を防ぐといった対策が日本では既に行われています。この二つの対策に限らず、他にも様々な対策があると思います。それらは全て、人々の暮らしと命の安全を守る為に行われているものです。私は、それらのことは全てやりがいの感じられる仕事だと思います。

土木・建設業は、人々に豊かな生活を届けるのが、大きな目的です。それは、とても責任のある仕事ですが、それと同じ位に魅力に溢れている素晴らしい仕事であると、私は思います。

建設系高校生による「建設業に対するイメージアップ」作文の部



「建設業の魅力と重要性」

愛知県立岡崎工科高等学校 土木科 3年

佐々木 愛子

皆さんは、建設業にどのようなイメージを持っていますか。汚い、危険、重労働など、マイナスなイメージを持っている方も少なくないと思います。そこで、私が土木科に入ってから学んだ建設業の魅力と重要性についてご紹介します。

まず、建設業の魅力の一つとしてあげられるのは、人々の生活の基盤になっているということです。住んでいる家も、整った道路も、上下水道さえも建設業の仕事です。当たり前のようにそこにあるものはすべて誰かの仕事によって産み出されています。そして、それが建設業の仕事であることは少なくありません。人のため、住み良い未来のために一生懸命仕事をするこそが建設業の最大の魅力です。

次に、建設業とは私たちが生きていくうえで、なくてはならない存在です。日本は自然災害の絶えない国です。そんな中、私達が暮らし続けていられるのは、地震に負けない建物や、洪水を最小限にするための地下水路やダムがあるからです。これまでに、自然災害によって亡くなってしまった方々の命を無駄にしてはいけません。同じことが繰り返されないように、建設業はさらに進化していきます。

しかし、建設業は今人手が足りていません。私は、日本を少しでも支えたいと思い工科高校の土木科に入りました。土木科では、皆さんが想像するような、コンクリートやアスファルトのことだけでなく、橋やダム、重機などについても学ぶことができます。二年生の夏には、小型の重機の免許を取ることが出来ました。小型の重機の操縦はそれほど難しくはなく、慣れてくれば楽しく操縦することが出来ます。このように、資格や免許をとる機会がたくさんあることは土木科の魅力です。

資格を持っていれば就職に有利になり、資格によっては資格手当がもらえる会社もあります。私が土木科に入り一番楽しいと感じたのは、実習です。レベルを使い測量をしたり、モルタルを作り強度を調べたりと、普通科高校ではできないことをたくさん経験することが出来ます。実習の一番の魅力は仲間との共同作業です。実習で、一人で作業することはほとんどありません。新しい経験を仲間と共有し、協力することで団結力が高まります。

これは建設業でとても大切なことだと思います。仲間と支えあいながら作り上げた物が完成した時の感動は、計り知れないものです。

きれいな道路を見ても、それを作った人に対して感謝する人は少ないと思います。ですが、そこが建設業のすごいところです。きれいな道路が当たり前である、と思わせられるほど日本は進化したのです。建設業は縁の下の力持ちだと思います。私はその中の一人になり、人々の生活を支える側になりたいです。しかし、そんな力持ちが今人手不足です。日本の進化を止めない為にも一人でも多くの方に建設業の魅力を知ってもらい、力持ちの一員になってもらいたいです。

世界はこれから、日々変化していきます。日本では、新たな交通であるリニア新幹線の工事もすでに着工されています。また、各地域でスマートシティ構想が計画されています。ここでは、現実空間とAIやIoTとが組み合わさった超スマート社会の実現のために今までにない街づくりが行われようとしています。人間や生物、そして地球環境にも優しい社会にする動きがあります。

近い未来に、このような社会の基盤絵を作るのは土木の力で、土木の力がなければ作ることもできません。一緒に未来を作りませんか。